

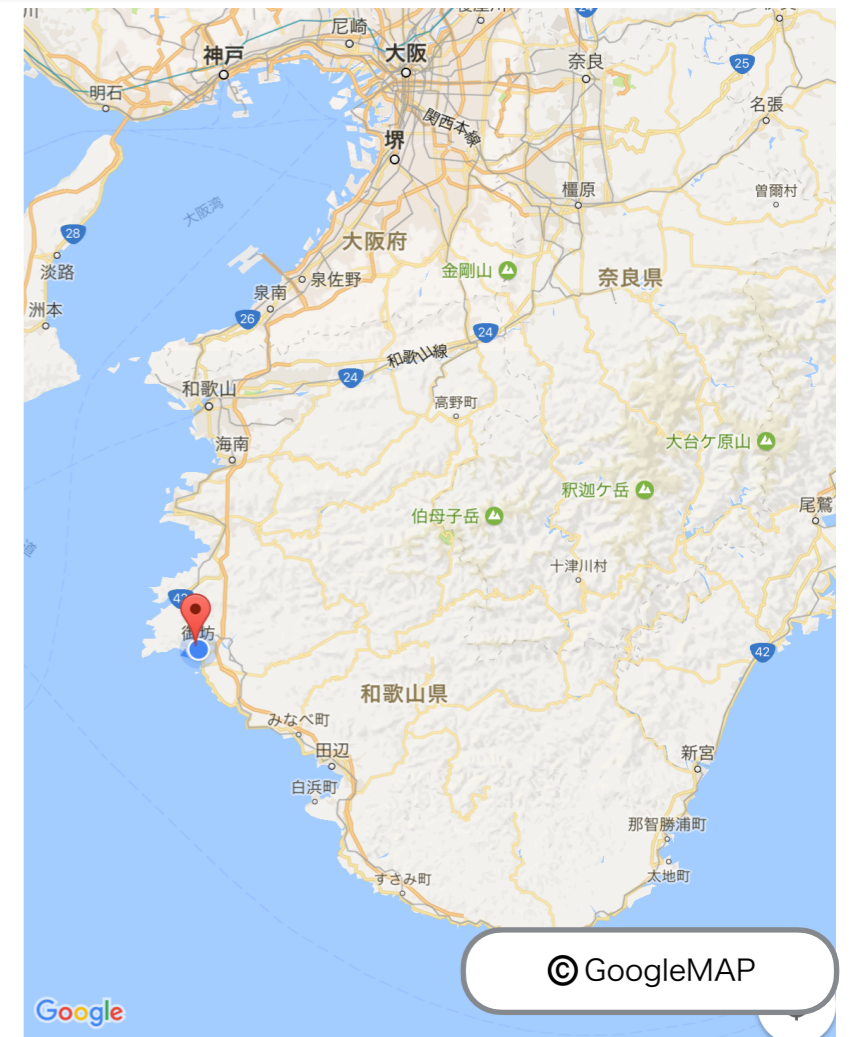
ごぼう総活躍のまちづくり ～それぞれの立場でできること～



御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之

御坊市について

- 紀伊半島海岸部のほぼ中央部
- 総面積：43,91 km²
- 日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域
 - 河北：地元の方と移住の方が混在。
 - 中央：官公庁や商業施設が集中。
 - 河南：農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る
- 昼夜間人口比率：113%



総人口	65歳以上人口	高齢化率	要介護認定者数	要介護認定率
24,106人	7,242人	30.0%	1,681人	23.2%
認知症日常生活自立度Ⅱ以上	独居高齢者数	第6期介護保険料	日常生活圏域	地域包括支援センター数
1,022人	2,199人	5,790円	6圏域	1 (直営)

御坊市の自慢



スターチス生産量日本一



人を見たけりゃ”御坊祭”



日本のシンデレラ”宮子姫”



糖度が高いイチゴ”まり姫”



麻雀牌・サイコロ生産量日本一



西日本一短い鉄道”紀州鉄道”

行政から求められている推進員の役割

- ・ 認知症の正しい理解の普及
- ・ 医療と介護の連携体制構築
- ・ 認知症支援のための人材育成
- ・ 地域づくりへの後方支援
- ・ 脱領域との連携

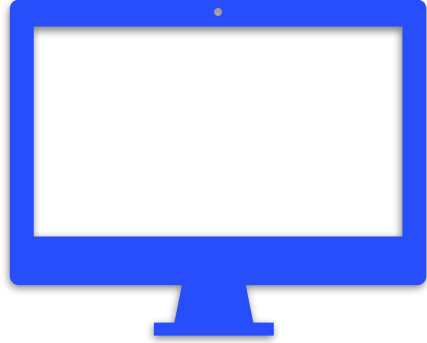
上記のために、「本人の声」を聴く

「本人の声」を
聴いていきますか？

ある認知症の男性が
コンビニでよくタバコを買います。
財布に小銭があっても、お札で支
払います。



なんで???

ある認知症の男性が  テレビが好きでしたが、見る
ことが少なくなりました。

なんで???

御坊市の認知症施策に関する組織図

介護福祉課

地域包括支援センター

認知症初期
集中支援チーム

認知症地域
支援推進員

高齢福祉係

介護保険業務全般
要介護認定業務
介護保険事業計画策定
緊急通報システム
デイケアサロン
グループホーム利用助成事業

認知症サポート医

認知症疾患医療センター

在宅介護支援センター

これまでの御坊市の認知症施策

認知症地域支援体制構築等推進事業 (H21~22)

- ・ 「認知症コーディネーター会議」 発足
- ・ 認知症地域資源マップ
- ・ 高齢者安心サポート事業
- ・ 安心声かけ訓練
- ・ キャラバン・メイト養成研修
- ・ 認知症連携担当者配置

市町村認知症施策総合推進事業 (H23~25)

- ・ 認知症地域支援推進員配置
- ・ 認知症疾患医療センターとの連携体制づくり
- ・ キャラバン・メイト中心のまちづくり組織結成
- ・ 若年性認知症の方への支援 (1人の関わりから)

認知症総合推進事業 (H26~)

- 御坊市認知症ケアパス作成⇒第6期介護保険事業計画に反映させる
- ・ 認知症初期集中支援チーム設置 (H27. 10月)
- ・ 介護家族のつどい「ごぼうホッとサロン」開設

今までの取り組みを継続しつつ、
総合的な取り組みに再構築

H28年度～ 「ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト」

御坊市まち・ひと・しごとと創生総合戦略

※戦略一部抜粋

《人口減少時代に合ったまちづくり》
まち・ひと・しごとの好循環を支える
時代にあった暮らしやすいまちづくり

基本目標4：時代にあった地域をつくる

安心・安全な暮らしを守るとともに、地域で支え合う、暮らしやすいまちづくり

施策の基本的方向

- 1.防災体制の充実
- 2.高齢者の生活支援
- 3.健康づくりの推進
- 4.協働（連携）によるまちづくり

認知症施策を抜きに、
戦略は進まない！！
(地方創生は実現できない)

ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

少子高齢化により人口減少が進む中、認知症の方や障害がある方でも、「総活躍分の1人」となれる社会を目指し、安心・安全に暮らせるまちづくりを5ヶ年計画で実施。（H28年度～）

企画課：プロジェクトの企画調整

○健康づくり

健康福祉課：生活習慣病予防、健康意識普及啓発、食育推進

○生きがいづくり

商工振興課：語り部育成

社会福祉協議会：シルバー人材センター機能強化

○地域づくり

介護福祉課：認知症地域支援を通じた活躍の場の創生

本日、お伝えする内容について

認知症とともに生きるために ～「**総活躍**」社会の実現にむけて～

- 啓発にも「本人の活躍」
- 推進員自身が持っている「資源」を活かす。
- 「本人の声」から再生した地域の絆。

スターチスの花言葉とともに

スターチスは、御坊市が出荷量
日本一を誇る花です。

花言葉は

「途絶えぬ記憶」

「変わらぬ心」

「永久不変」

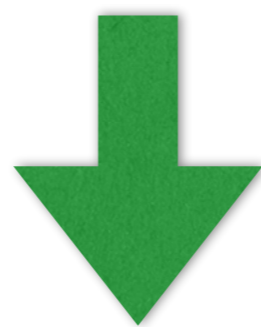


認知症になっても、
その人自身であることには変わりない

スターチスの花言葉とともに

「認知症とともに歩むまちづくり」

- きっかけは、居酒屋での雑談？
- 認知症地域支援メンバーと飲み会中、同級生のスターチス農家が店内に入ってきて、テーブルに合流（乱入？）。
- 「スターチス、なんとかしてくれよ！」と言われる。



ステキな花言葉！

認知症支援とコラボできそうやん！！

「フラワーボーイズ」との連携

居酒屋での一件から数日後、今後何かできないか、スターチス農家の若者たちとともに、話し合う。

農家の方たち

- JA青年部を中心に、「**フラワーボーイズ**」を結成し、花のPR活動を行っている。
- 母の日の起源にあやかって「**母の日参り**」というイベントを啓発。

認知症支援チーム

- スターチスの花言葉とともに、地域づくりを考えている。
- スターチスの花を使った啓発グッズを作成したい。

啓発グッズの考案・製作

- スターチスの花を一輪と、花言葉を記載したカードを同封してノベルティ作成。
- 花は、フラワーボーイズから出荷できない花等を無償提供してもらう。



認知症の本人の声「役に立ちたい」

ノベルティ作製について、認知症の方たちの力借りよう！

認知症対応型デイサービス等、事業所の壁を超えて、4事業所共同で製作。

さらにフラワーボーイズと話し合い

- ノベルティを作成して、認知症の方とともに取り組んでいることをフラワーボーイズに報告。
- フラワーボーイズより「母の日参りのための無料配布花束を作らないといけないんですが、それが大変で・・・」



フラワーボーイズと話し合い

認知症の本人の声「役に立ちたい」

認知症の方たちの力を借りて、花束作製を手伝ってもらおう！

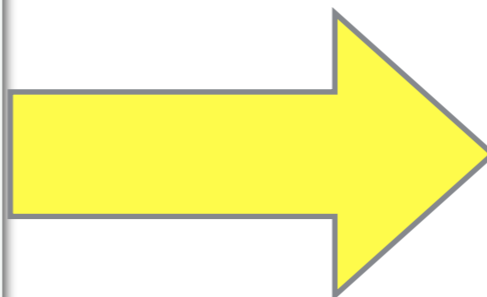


フラワーボーイズ「本当にお願いしていいんですか？」

本人たちの「活躍」



ノベルティ作製で活躍



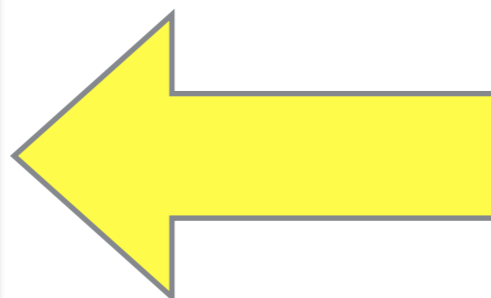
もっと
役に立ちたい！



スターチス収穫で活躍



フラワーボーイズに花束を渡す



花束作製で活躍

さらに活躍の場を「世界」へ

国際アルツハイマー病協会国際会議（ADI）in京都 にてノベルティ配布

- 日本認知症ワーキンググループ（JDWG）の協力をいただき、ADIのブースでノベルティ配布。



海外の方にもスターチスの魅力、
そして本人たちの活躍を伝える



JDWGのワークショップで
スターチスを飾っていただく

事業を「やった」だけで終わらせない

日本認知症ワーキンググループのメンバーである丹野智文さんや藤田和子さんにご協力をいただき、地域づくりを考える。
著名な方をお呼びしての「講演会」だけで終わらせない取り組み。



丹野さんのメッセージを多くの方に届けるため
講演録のリーフレットを作成



藤田さんとの対話で
「自分自身の手で色々やりたいことがたくさんある」とお聞きし
「ごぼう総活躍ボイスカード」を作成

**認知症の本人の声に耳を傾け、
「これからのこと」を一緒に考え、
地域づくりをする。**

～1人の男性から始まった地域の再生～

1人の男性との出会い

- 平成28年2月、Nさん（当時89歳）と妻が市役所窓口へ来所。
- 最近、足腰が弱くなってきて転倒を繰り返すようになり、腰椎圧迫骨折をしてしまったとのことで、要介護認定の申請。
- 「それとな、最近、頭がぼけてきたような気がしてな」（本人の言葉）
- 「要介護1（認知機能低下）」の認定を受ける。
 - ➔在宅介護支援センター職員と訪問。

本人の「今」と「これから」を話し合う

本人はその後、認知症疾患医療センターで「レビー小体型認知症」と鑑別診断を受ける。⇒更新認定で「要介護3」に。

●本人

「わしはまだまだ人様の世話にならんでも大丈夫」

「ちょっと前まで色々やってたんや。猪狩り、畑、釣り、スポーツ、麻雀、将棋等々。」

自宅裏の畑を手入れできていないことが気になっている様子。

●妻

「とてもじゃないけど、1人じゃ（夫の介護）無理。**地域の人に夫が認知症であることを知ってもらいたい。**」

畑にミカンやレモンがたくさんある。収穫しよう！

本人が気になっていた裏の畑にレモンやミカンの実がなっている。
これを収穫することで地域の人たちを呼べないか・・・



- 近所の友人に声かけ。「久しぶりにNさんに会いたいし、畑手伝うよ」
- 近くの認知症デイ利用者も来てもらえないかな？たくさん来てくれた！
- 部屋から出なくなってたNさんが畑に出てきた！
- 歩行器で出てきたが、帰りは杖なしで歩いた！

本人だけではなく、参加したみんなが
「いい日、いいひと時」を過ごせた

アクションミーティングのはじまり

妻の「夫のことを地域の人に知ってもらいたい」
という思いにどう応えるか・・・

- 妻の知人2人を頼りに、地域の人たちと話ができないか検討
- 「地域の女性みんなに声かけてみるよ」と言ってくれた。
- 集会場に、16名もの女性たちが集まってくれた！
- でも、最初は「何をさせられるの？」という表情・・・



認知症介護をしている妻の思いを共有

「夫は認知症です。でも夫であることに変わりありません」

Nさんの妻の話を聞いて

- 「他人事じゃないよね」
- 「今度、Nさんの顔見に行くよ」

Nさんの畑で採れたサツマイモ
で焼き芋作ってみんなで食べたよ！
焼いたのは市職員 ^o^

集まったみんなの声

- 「今日は楽しかったね！」 「次も集まる？」
- 「じゃあ、**毎月第1金曜日に集会場へ集まろう！**」
- 会の名前も決めよう！昔集まってた「**むつみ会**」復活で！
この2つが、アクションミーティングで決まったこと！



でも、誰かの負担になるようなことはやめようね。
ただここにくれば、楽しくて安心できる場所であれば、いいね

新”むつみ会”スタート！

- 以前の「むつみ会」のリーダーだったUさんが5年前に他界。それ以降、自然とむつみ会が集まらなくなっていた。
- Uさんの妻は夫と死別後、有料老人ホームへ入居。自宅を解体したため、5年以上、地元に戻ることがなかった。
- Uさん妻に、「むつみ会復活」を伝える。（Uさん担当ケアマネジャー）
 - ➔「それは亡き夫も喜びます！ありがとうございます！」
- 「Uさん、むつみ会に行ってみませんか？」とケアマネジャー提案。
 - ➔「行っていいの？行きたい！」 「みんなに会ったら泣いてしまうかも」
「体調整えて、綺麗にしていかないとね」

平成29年1月6日、むつみ会の新年会に参加決定！

むつみ会の新年会開催！



地域の方が、Uさんを歓迎
「おかえりなさい！」



NさんとUさんが数年ぶりの再会を喜び
次回会えることを約束して握手

**もう、Uさんの家は解体してしまっていて、帰る家はないけど、
たとえ施設に入っても、「帰る地元」がここにある！**

むつみ会における、様々な活躍

- Nさん：やりたいことを声に上げた。
- 在宅介護支援センター：地域の方の声を聞いた。
- 地域の方：むつみ会復活にご尽力。
- 認知症対応型デイサービス利用者：ミカン狩りの戦力に。
- Uさん：むつみ会に参加して、久しぶりの再会で盛り上げた。
- 市職員：焼き芋を焼いた。

**様々な活躍がつながり、
地域がひとつになっていく！！**

御坊市版 認知症ケアパス

第6期介護保険事業計画策定に合わせ、平成26年度に「御坊市認知症ケアパス」を作成。

作成に向けて「認知症ケアパス策定委員会」を結成。

作成プロセスで抽出した地域の課題を事業計画に反映できた。

が、しかし・・・

誰のために役立つケアパスなのか？

ある当事者が、BPSDの説明を見て

「オレも、いずれはこうなるんやね・・・」

「本人の視点」をほとんど意識せずに作成してしまった。

取り組みを振り返り

地域に出て、本人や家族、地域の人と話をすれば・・・

- 「**1人の声**」から地域がつながり、さらに広がる可能性。
- フォーマルorインフォーマル資源と分けるのは専門職だけ。本人や地域の人にとっては、**支えすべてが資源**。
- 地域づくりの仲間をどのように増やしていくか？つながりたい相手との**相互の利益**を考える。

でも！

すべてがうまくいくわけではない・・・

そんなときは、一度立ち止まって、本人や家族、地域の人の声に耳を傾ければ、何かヒントが見えてくるかも。



**認知症が進行し、表情も固く
ほぼベッド上で過ごしていた。**



**私たちが目指していくことは、
市民一人ひとりのこんな姿を見たい**

認知症地域支援推進員のみなさまへ

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを、**自分ごと**として考えてみましょう。

自分がこれから、住み慣れたまちでどういう人生を歩んでいきたいか・・・

「認知症の人に」ではなく、「**認知症の人と**」何ができるか。

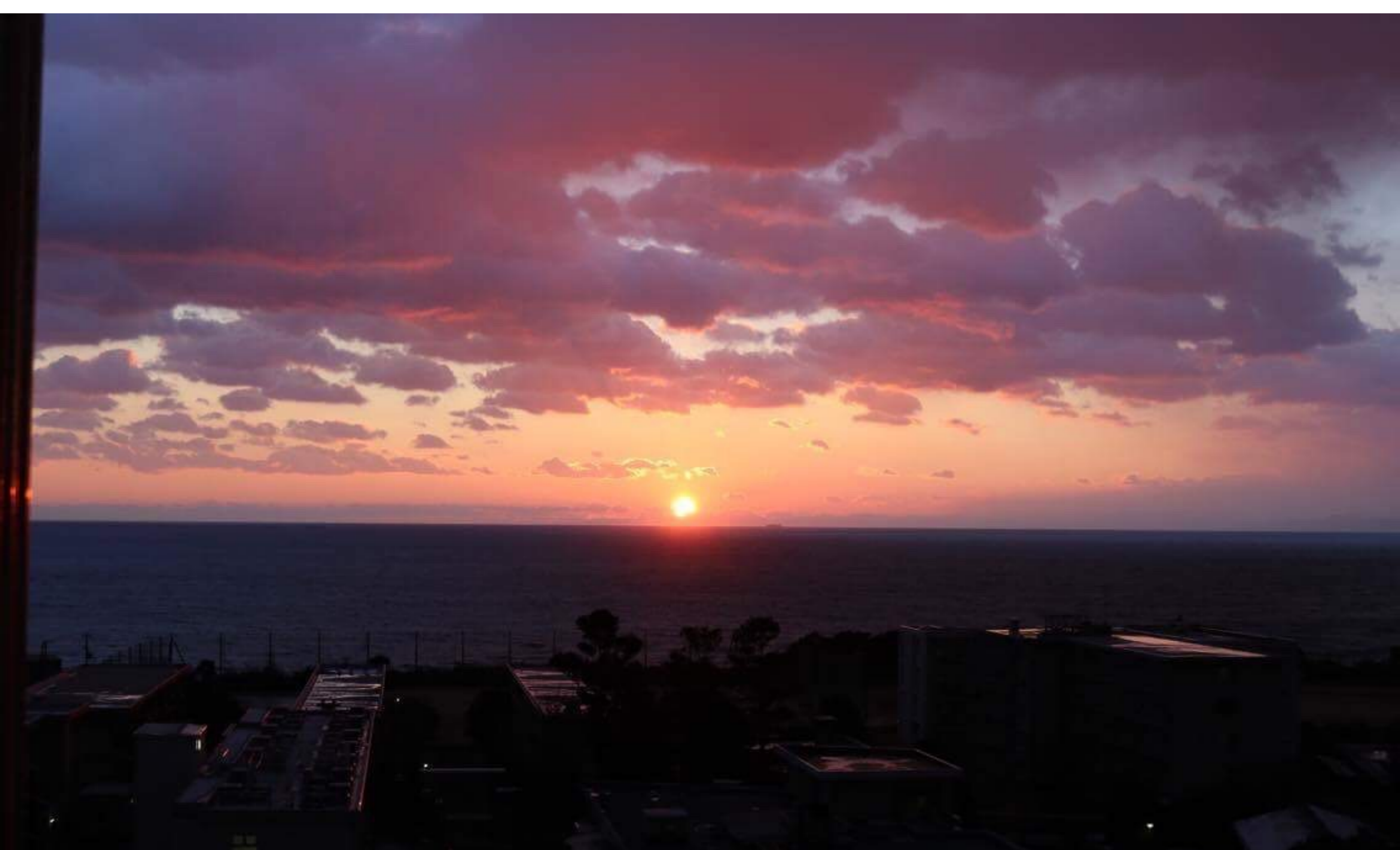
そして、認知症の人**も同じ地域で暮らす「仲間」**と考えると、地域づくりが見えてくると思います。

今日もたくさんの仲間との出会いがあったと思います。

その仲間とともに、認知症になっても希望を持ち安心して暮らせる地域を作っていきます！

**「巻き込む」より
「巻き込まれる！」**

**迷ったときは、
本人に聴く！**



撮影 丹野智文さん（撮影地：御坊市名田町）

ご静聴ありがとうございました！